

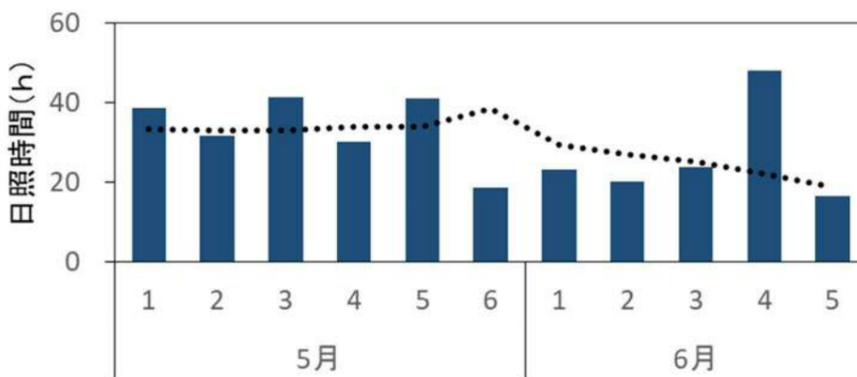
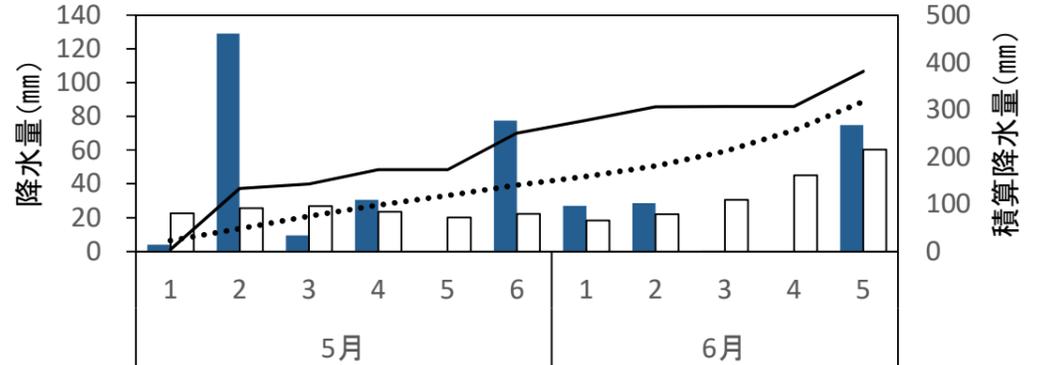
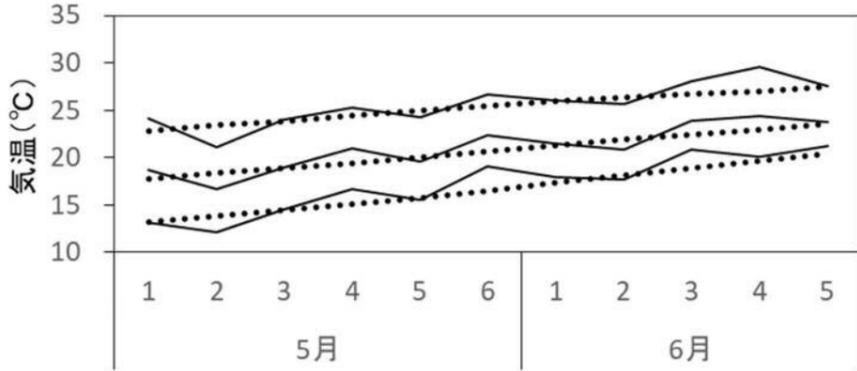
普通期水稲管中後期管理講習会

令和5年7月

J A 北九・北九州普及指導センター

1 気象概況及び生育概況

梅雨入りは5月29日で、昨年より13日早く、平年より6日早くなっています。5月から6月5半旬の気象状況を見ると、気温は平年より概ね高く、日照は5月6半旬～2半旬で一時的に少なくなりましたが全体的に平年並、降水量は平年比120%と多くなっています。育苗期の一時的な天候不順により、一部苗いもちが発生しています。また、移植後は、一部のほ場でスクミリングガイの被害が目立ちますが、生育は概ね順調で茎数も確保されています。



八幡アメダスデータ 6/28時点
平年値は1990～2020年の平均

＜今後の気象予報＞

1か月予報 (6月22日福岡管区気象台発表)

気温は高く、降水量・日照時間は平年並みの見込みです。

3か月予報 (6月22日福岡管区気象台発表)

平均気温は高く、降水量は平年並みの見込みです。7月は平年と同様に曇りや雨の日が多く、8月、9月はほぼ平年並みの予報です。

2 今後の管理

1) 水 管 理

中干しの実施 米の品質や収量を左右する重要な管理作業です。

- ・中干しの効果 ①窒素の供給を抑制し無効分げつを防ぐ。②土壌中に酸素を供給し根の活力を高める。③倒伏防止
- ・中干し程度 田面に浅い亀裂が入る程度。(土が黒く足跡がわずかにつく程度)
- ・中干し期間 ①7日間程度、但し排水が悪い田はやや長めに干す。②中干し終了後は間断かん水の管理を行う。(中干し終了後の急な長期湛水は根腐れや下位葉の枯れ上がりの発生を助長する)

幼穂形成期～開花期 幼穂の発育や稔実のため最も水が必要な時期。浅水湛水又は軽めの間断かん水で水を切らさない。

登熟期 間断かん水とし、根の活力維持を図ります。

落水 収穫の7～10日前まで落水しない。早期落水は収量低下・登熟不良の原因となる。

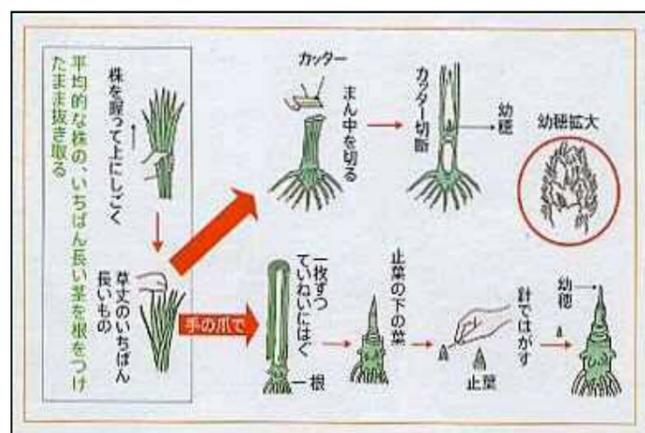
台風襲来時 深水管理 (強風で葉が痛み稲体の水分が奪われやすくなるため)

2) 穂 肥

○ 出穂期及び穂肥時期の目安 (平年値からの推定)

品 種 名	田植時期	出穂期	穂肥時期
夢つくし	5月25日	8月4日頃	7月15日頃
	6月5日	8月9日頃	7月20日頃
	6月10日	8月11日頃	7月22日頃
元気つくし	6月10日	8月17日頃	7月30日頃
	6月20日	8月21日頃	8月3日頃

幼穂の確認方法 (主茎で見る)



○ 施用量の目安

葉色と生育状態	幼穂長	出穂前日数	肥料の目安 (10a 当たり)	備考
3. 5前後 (葉色板) 葉色が適当に低下し 分けつも十分	2~5 mm	20~18 日	きたきゅう水稲用追肥 30~35kg ワソヨット追肥エムコート 206 15 kg	有機入り肥料 元気つくし専用。緩効性肥料のため、穂肥の時期は遅らせず、散布量を減らす
	2 mm	20 日	スーパーユーキくん 3号 35 kg	有機入り肥料 (有機態窒素 51%)。県認証栽培指定品
	1 mm	25 日	なたね油粕 50~60kg	有機肥料
4. 0以上 (葉色板) 葉色が濃く過繁茂で 茎数 25 本/株以上	5~10 mm	18~15 日	きたきゅう水稲用追肥 10~20kg	
	5mm	18 日	スーパーユーキくん 3号 10~20kg	
	2~5mm	20~18 日	ワソヨット追肥エムコート 206 5~10 kg	

* 基肥に「エムコート 2000 (緩効性肥料)」を使用した場合は、基本的に穂肥はしません。(葉色が薄い場合は、要相談)

- 注意事項
- * 穂肥時期になっても葉色が濃い場合は1週間程度待ち、葉色が落ちた場合は基準の半量程度を施用。1週間経っても葉色が落ちない場合は、穂肥を控えるか少量施用とする。
 - * 葉いもちが発生している場合は、穂肥の施用量を控える。発生が激しい場合や病気が進行している場合は施用しない。

3) 雑草対策 雑草が残ったほ場では、中後期除草剤を早めに散布する。

(粒剤体系の場合) (太字農業は稲作暦に掲載)

(使用量は10a 当たり)

対象雑草	農薬名	使用時期	使用量	使用方法等			使用回数
				湛水散布	ごく浅い湛水散布	落水散布	
イネ科(ヒエ、キシュウス、メヒエ、アゼガヤ)	クリンチャー1キロ粒剤	移植後25日~ノビエ5葉期 但し、収穫30日前まで (1kg施用の場合は移植後7日~ノビエ4葉期まで)	1.5kg (1kg)	○			2回以内
広葉(ホトイ、ウリカワ、ミスガヤツリ、クログワイ等)	バサグラン粒剤	移植後15日~55日 但し、収穫60日前まで	3~4kg		○	○	1回
イネ科+広葉(水田一年生雑草、ホトイ、ウリカワ、ミスガヤツリ等)	レプラス1キロ粒剤 (飼料用米には使用不可)	移植後14日~ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	1kg	○			1回以内

(液剤体系の場合) (太字農業は稲作暦に掲載)

(使用量は10a 当たり)

対象雑草	農薬名	使用時期	使用量	使用方法等				使用回数
				湛水散布	ごく浅い湛水散布	落水散布	展着剤	
イネ科(ヒエ、キシュウス、メヒエ、アゼガヤ)	クリンチャーEW	移植後20日~ノビエ6葉期 但し、収穫30日前まで	100ml (25~100ℓ)	○		○	○	2回以内
広葉(ホトイ、ウリカワ、ミスガヤツリ、クサネム等)	バサグラン液剤	移植後15日~55日 但し、収穫50日前まで	500~700 ml (70~100ℓ)		○	○		2回以内
イネ科+広葉(一年生雑草、ホトイ、ウリカワ、ミスガヤツリ等)	クリンチャーパスME液剤	移植後15日~ノビエ5葉期 但し、収穫50日前まで	1000ml (70~100ℓ)		○	○	×	2回以内 薬害の恐れ
イネ科+広葉(一年生雑草、多年生広葉雑草)	アレイルSC	移植後20日~ノビエ5葉期 但し、収穫45日前まで	通常散布 500ml (50~100ℓ)	○		○		2回以内
イネ科+広葉(一年生雑草、多年生広葉雑草)	ワイドアタックSC	移植後20日(イネ5葉期以降)~ノビエ6葉期 但し、収穫30日前まで	100ml (100ℓ)		○	○		2回以内

4) 病害虫

今年度、トビロウカ(秋ウンカ)の飛来はまだ確認されていませんが、中国での発生が多いことが報告されています。今後発信する防除情報や別添防除資材一覧を参考に、病害虫の防除を行いましょう。

いもち病 夏季の低温、多雨、日照不足や窒素過多で多発。夢つくし、元気つくしはいもち病耐病性が弱い。

置き苗は速やかに引き上げ、感染源を断つ。葉いもちは、発生初期に防除を実施。特に、上位3葉に病斑が見られた場合は、早急に防除を行います。

紋枯病 高温多湿を好む。茎数が多く猛暑の年は注意が必要。梅雨明け後に高温になると病斑が稲株の上位へ広がります。防除適期は出穂2週間前~10日前です。100株に2割以上(20株以上)病斑がみられる場合は早急に防除。

ウンカ類 ほ場での発生状況や今後の発生情報等(注意報や警報等)を確認して防除を実施しまししょう。

(防除目安) **トビロウカ** 8月中下旬頃に成虫が1株4頭以上いたら防除します。

カメムシ類 斑点米対策として、出穂14日前までに畦畔や周囲の休耕田等の除草を行いましょう。防除は穂揃期から10日後となります。カメムシが多発している場合は、穂揃期に防除する必要がありますが、防除にあたっては、ミツバチへの影響を十分考慮して行いましょう。

※イネカメムシは、他のカメムシ類と比べて発生時期が早く、出穂期に加害されると不稔になるため、出穂期(40~50%)に1回目の防除を、発生が多い場所では、出穂期7日後に2回目の防除を検討しまししょう。